

2015.02.18

「財政再建を優先すればデフレになる」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は2月18日火曜日です。

昨日と今日の二日間、参議院議員運営委員会の委員派遣で、京都の迎賓館、関西文化学術研究都市にある、国立国会図書館関西館の視察に行ってお参りましたので、本日は珍しく京都事務所からビデオレターを発信させていただきます。今日お話を頂くことは、経済政策の方向性や、これからのアベノミクスについて話したいと思います。

今、衆議院の方で予算委員会が行われていますが、来月から参議院の方でも予算委員会が行われます。この予算委員会で、私も質問に立つことが既に指名されており、その準備を行っております。昨日、衆議院の予算委員会を観ていましたら、民主党の代議士が、経済政策について安倍総理に質問しておりました。その内容とは、政府のバランスシート貸借対照表を、もっと身の丈に合った形で、身軽にしていくべきだと言う趣旨の質問でした。しかし、私はそれに対して、異論を述べたいと思います。バランスシート貸借対照表というものは、資産、負債というものがああり、企業経営でも「バランスシートを軽くしよう。」とよく言われてきました。それは、バブル崩壊前までは沢山借り入れをして、投資を行い、借り入れと資産が増えていくことにより、会社の規模が大きくなって事業を伸ばしてきました。しかし、バブル崩壊後、その需要というものが、

泡粒の様なもので幻であったことから、売上が急激に落ち込み、企業経営者は大変な目に合いました。そこで、持っている遊休資産を売り、負債を減らしていくということをやってきました。正にバランスシートを小さく整え、会社の身の丈にあった経営していくということを、民間企業で盛んに行われてきました。そのような状況を受けまして、小さな政府論が、バブル崩壊から 20 年間、盛んに言われてきました。しかし、冷静になって考えれば、誰でも分かることですが、身の丈に合った経営ということで、民間企業が資産を整理し、負債を減らすということは、民間企業として当然のことです。しかし、この当たり前、当然のことを皆で行ってしまうと、投資が抑制され、世の中に出回っているお金の量が減ってしまい、借金がどんどん銀行に返済されていきます。銀行が預金を頂いて、お金を貸し出していくという、マネーサプライが縮小していくと、デフレを生み出してしまいう訳です。しかし、民間企業の立場としては、負債を減らしていかなければ、倒産してしまいますので、仕方がありません。しかし、同じことを政府が行うと、予算を削減し、借金してまで事業を行わないようになります。また、国債を減らし、事業も減らしていくようなことを行っていきますと、唯でさえ、民間のお金が小さくなっているにもかかわらず、政府まで予算を小さくしていけば、デフレを生み出してしまいます。実は、そういったことを 20 年間日本はやってきました。失われた 20 年というのは、こういった誤った政策による結果です。その反省を踏まえて、アベノミクスで

は、金融緩和と同時に、財政出動を行っていくことにより、第三の矢に繋がっていきます。しかし、民主党が言っている主張というものは、これまでのことへの反省を全くしていません。民主党の代議士は、「アベノミクスで景気が良くなっていくことは良いことですが、借金をしていきながら、投資をしていけば、バランスシートが大きくなりすぎ、国の財政が悪くなっていくのではないか。だから、国の財政再建のためには、バランスシートを軽くする必要があり、資産を売却し、予算を減らしていく必要がある。」ということをお安倍総理におっしゃっていました。しかし、私は20年間の経済の実態を見ていない話だと思いました。安倍総理はその質問に対し、その意見に賛同致していませんでしたが、こういった考え方が野党には多いです。野党からすれば、「無駄を削減し、できるだけ国民負担を減らし、また、支出を減らしていき、財政再建していこう。」という考えを持っている方々が多くいます。また、自民党の中にも、そういった考えの方々がいらっしゃいます。その中で、アベノミクスは財政出動を行ってきましたが、ここへ来て、またぞろ小さな政府論が色々なところで、頭を擡げ出してきました。国会での議論では、そういった話の動向が、アベノミクス批判ということも含めて話されます。しかし、これは全く的を得ていない話であり、我々がしっかり認識しておかなければなりません。むしろ、デフレ脱却するためには、民間の投資が少なくなっている時こそ、政府がもっとお金を使わなければなりません。しかし、そういったことを行わなければ、日

本経済が本当におかしくなります。今、アベノミクスで経済が良くなりかけてきたのは、政府が財政出動を行ったことで、経済が良くなりはじめました。しかし、野党や自民党内、政府の諮問委員会で企業経営者の方々にも、新自由主義的な発想の方々が多いです。現に、「法人税減税しろ。」という話が盛んに行われていますが、私はそういったやり方をしていくと、結局 20 年前と同じようになってしまうと思います。財政再建のために、企業のように身の丈にあったバランスシートにしていってしまうと、これは方向違いの基になるということ、非常に強く危機感を感じています。来月の予算委員会では、そういったことも踏まえ、アベノミクスの三本の矢の中で、2 番目の財政出動が一番大事な肝になっている部分です。そのことを理解してやらなければ、せっかくのアベノミクスが、途中で腰折れ状態になるということも考えられます。その危険性をしっかり指摘していきながら、国民や野党の皆様方含め、20 年間のデフレの原因は何だったのか、ということをお話致したいと考えております。これから行われる、予算委員会で議論になるような内容について、お話させていただきました。また、皆様方にご報告致したいと思います。

本日も御覧頂きありがとうございました。